

## ●平成 24 年度第 2 回理事会議事録

日 時：平成 24 年 11 月 24 日（土）13：30～17：30

場 所：東京慈恵会医科大学 高木会館 5F B 会議室

出席者：明間立雄，石川義弘，上田陽一，宇賀貴紀，岡田泰伸，岡村康司，岡野栄之，小野克重，加藤総夫，河西春郎，狩野方伸，梶 秀人，上窪裕二，亀山正樹，久保義弘，久野みゆき，蔵田 潔，倉智嘉久，栗原 敏，黒澤美枝子，鯉淵典之，小西真人，佐々木和彦，少作隆子，白尾智明，関野祐子，高井 章，多久和陽，多久和典子，竹森 重，當瀬規嗣，富永真琴，中島 昭，鍋倉淳一，福田敦夫，古谷和春，本間さと，松井秀樹，丸中良典，三木健寿，御子柴克彦，持田澄子，八尾寛，矢田俊彦，山本哲朗，柚崎通介

欠席者：入來篤史，尾野恭一，川上順子，小林 誠，佐久間康夫，泰羅雅登，高松 研，大橋俊夫（第 89 回大会長）

### 報告及び協議事項

#### 1. 会長挨拶

事務局移転について説明があり，新事務員が紹介された．前回理事会で決定した新体制（会長と 6 名の副会長体制）で学会運営を進めていくことが確認された．今後学会の活性化に向けて，底辺の拡大，国際交流・親交，情報の発信・共有を進め，財務の改善（事務局移転などのため財務が厳しい）を行う予定である．また以下が報告された．

- ・事務局移転の際，会員データの引継ぎ等が十分に行われていなかったため，今後会員情報の整理，会費納入状況確認作業に時間がかかる．

- ・布施ビルにあった古い資料の保管について今後検討が必要である．

また，本会議の議事録には出席者全員の捺印が必要になるため，後日，議事録を郵送するので捺印していただきたい．

#### 2. 庶務報告（栗原会長）

3 月以降の入会者数（102 名），退会者数（28 名），また会員総数（2768 名）が報告された．平成 24 年 2 月以降にご逝去された，4 名の特別会員，また事務局の滝芳子様に対し，弔意が述べられ，黙祷した．第 53 回（平成 24 年度）東レ科学技術研究助成に小林克典先生を，平成 24 年度上原賞（研究業績褒賞）に大橋俊夫先生を，第 44 回（平成 24 年度）内藤記念科学振興賞に持田澄子先生をそれぞれ推薦したことが報告された．また，第 9 回ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」，第 33 回バイオメカニズム学術講演会を後援，第 27 回生体・生理工学シンポジウム，第 36 回人間－生活環境系シンポジウムの協賛，プリン 2012 福岡：アデニンヌクレオシド・ヌクレオチドの生体機能～サイエンスの輝きと画期的新薬の創製に向けての共催を行った．

#### 3. 財務報告（石川副会長）

平成 24 年度収益経常増減で一番大きな違いは事務所移転に伴う費用が大半である．布施ビル（本郷）から IMIC に移転したことで発生した退去保証金償却費や退去に伴う原状回復費など予定外の出費，また移転により業務委託人件費の変動（今まで滝さんをお願いしていた業務を IMIC に委託）があった．現在会員データベースの整備段階で，財政は厳しい状況だが，3 年ほどかけて改善していきたい．栗原会長より，不確定な会員データが整えば，会費収入の増加が見込まれるとのコメントがあった．平成 24 年度修正予算，また平成 25 年度予算について承認された．

#### 4. FAOPS 報告（岡田前会長）

以下について報告された．

- ・2011 年の台湾大会開催後，新たな執行部体制となり，Julie Chan 先生が会長となった．

- ・FAOPS News letter の最新号が 6 月に発刊され，岡村康司先生がインタビューに応じられた．

- ・第 10 回 IMSPQ（学生を中心とした，生理学の知識のクイズを行う大会）を共催し，その取り組みが米国生理学誌に紹介された．次回も同じ場所での開催に向け準備している．

また，次回の FAOPS 大会は 2015 年のタイでの開催を予定しているが，大会抄録の JPS への掲載の要望があり，検討されることとなった．

#### 5. 日本学術会議報告（本間委員）

第 22 期第一回 2 部部会が 8 月 3 日に東北大学にて，第 130 回総会が 10 月 8，9 日に日本学術会議講堂にて開催された．大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープランの公募時期が迫っている．2010 年より文系から工学まで含む，各学術分野が必要とする大型研究計画のなかで重要と思

われる研究のリストアップ作業を行ってきた。予算化される保証はないが、文科省が数件の最先端研究等を予算化したことを受け、第22期学術会議では、選考過程を透明化し応募の機会を与え、より良い研究をリストアップするという取組をおこなった。今後のスケジュールは、2013年1月に学術研究領域を制定（領域名の決定）し、2月に研究計画の公募を開始する。5～10年規模の大型研究の公募ではあるが、今回の応募では特に研究者コミュニティの要望を反映させている点が重要である。マスタープランについては生理学会の意見を反映させるためワーキンググループを設けた。1月半ばまでに鍋倉委員まで意見等を寄せてほしいとの要望があった。出席理事より、会員の意見も反映する予定があるか、との質問があった。会員の意見を反映させるには時間的に厳しいため、理事の先生方のご意見を収集するのが望ましいが、意見反映の方法については理事会にお任せするとの返答がされた。

また、生理・薬理として生体機能に関する機能的なデータベースをつくり、将来研究に役立てることを目的とした「研究開発基盤の構築」を計画中である。

## 6. 編集・広報委員会報告（多久和委員長）

日本生理学会雑誌については、本年7月号（74巻4号）より Symposia の企画を設けた。掲載量が増え発行が遅れているが、今後早めていくことが確認された。HP上で過去の生理学雑誌PDFデータの閲覧ができない事態が生じたが、使用サーバーが平成22年にサービスを停止していたことが判明し、現在ウェブページ管理を委託している会社にデータ復旧を依頼し、現在作業中で、既に一部は閲覧可能となっている。今後HPのデザインを刷新する予定である。HPの内容については、教育委員会、将来計画委員会からの提案などを広報委員会で集約し反映させることが確認された。

## 7. JPS 編集委員会報告（佐久間委員長一代理：小西副会長）

佐久間委員長の代理で、小西副会長より報告された。Impact Factor が2011年に1.606に上がり、過去最高となった。JPS 編集委員長について、編集委員会では石川義弘副会長に次期編集委員長になっていただくことが決まっていたが、石川副会長が大会の準備で忙しいことから今年度は佐久間先生が継続して委員長を務められ、第90回大会終了後石川副会長に引き継ぐことが確認された。

FAOPS2015のアブストラクトをJPSに収載することにつき提案された。石川次期編集委員長より、入澤宏・彩記念JPS優秀論文賞、JPS心臓・循環論文賞の審査結果が報告された。入澤宏・彩記念JPS優秀論文賞については、通常2篇を選出するが、投票の結果、同数票を獲得した3篇が受賞となった。JPS心臓・循環論文賞は通常どおり1篇が決定した。

## 8. 会員委員会報告（亀山委員長）

1) 会員数の増加を図る方策について、以下の提案がされた。

①入会手続きの簡略化（電子入会システムを導入し、推薦者には事後確認やメールでの推薦ができるようにする。若手の会より提案あり）

②専門パネルの簡素化（米国にない、専門分野を17項目に減らしてはどうか。石川委員、丸中委員からの案）

③個人賛助会員の設定（臨床研究者で生理学に関心のある方に、会費5000円程度で個人賛助会員になってもらう）。

①の提案については、継続検討することとなった。②については、加藤学術・研究委員長より、「科研費のキーワード等も変更されており、実際に必要な分類について会員へのリサーチを進めているため、その結果が出た時点で会員委員会へ報告し、再検討いただきたい」とのコメントがあり、継続検討することとなった。③については、正副会長で検討することとなった。

2) 評議員の選考基準の改定（学生会員でも評議員になれるようにする）について、3年以上の会員歴および大学院以降5年以上の研究歴があり、会費を13000円納めれば、学生でも評議員になれるシステムにしてはどうかとの提案があった。本提案については承認され、3月の社員総会に提出されることとなった。

栗原会長より、評議員になるための条件について定款に記載されていないため、会員委員会でも会員に関する規程をまとめてほしいとの要望があり、今後会員委員会で検討することになった。また出席理事より、評議員から一般会員へ戻るシステムも作ってほしいとの希望があり、委員会で検討することとなった。

## 9. 選挙管理委員会報告（明間委員長）

栗原会長からの指示で、現在地区別常任幹事の選挙規程の整備作業を進めている。今後他学会の選挙規程などを参考にし、案を作成予定である。また選挙人名簿を会員委員会と共有したいとの要

望がでた。

#### 10. 教育委員会報告（鯉淵委員長）

第90回大会より教育プログラムがスタートし、それに伴い「生理学エドゥケーター資格」制度が始まることが報告、説明された。資格制度を設定すると、審査が膨大になる、また規約も継続的な見直しが必要になることから、別途エドゥケーター認定委員会の立ち上げ、教育委員会の中島昭先生に委員長に就任いただきたいとの提案があり、承認された。エドゥケーター資格制度の説明に対し、出席理事より以下の意見がでた。

①資金的なメリットがあるか。認定資格を取った方を優先的に生理学雑誌などに掲載してほしい。（岡田前会長）

②元々、非会員の方々に生理学を学んでもらい、会員を増やす、底辺を広げるという目的だったが、認定制度を設けることで、資格を取らないと講義ができないととられ、逆に敷居が高くなるのではないか。資格取得のためにお金がかかるため会員の負担になるのではないか。いきなりスタートするのではなく、教育プログラムに関してイベント的なプログラムを設け周知することが必要ではないか。（関野理事）

③臨床の認定専門医試験と同じような制度であると誤解され、敷居が高くなるのではないか。幅広い分野の研究者を取り込めるような内容にしてほしい。（御子柴理事）

④底辺を広げるための教育プログラム、教育の質を高めるための教育プログラムの2本立てにはできないか。（多久和副会長）

⑤集会委員会が学会としての大会のあり方を議論しているが、集会委員会・将来検討委員会とも議論をしたうえで、進めるべきではないか。

⑥生理学は「楽しい」ということを強調できるプログラムにしないと意味がない。

⑦地方会を活性化させる（特に東京談話会）ことにもつなげてほしい。

⑧他委員会ともっと議論・連携をとって進めるべき。

⑨教育プログラムのみに参加できるようなシステムを作ってほしい。

鯉淵委員長より、出席のポイントは重視したいが、教育の質的保証が一番の目的で、資格の敷居（金額、資格取得方法）も高くない。とにかく教育プログラムを受けてもらうことが重要であるとの説明があった。また教育講演とエドゥケーター資格制度の開始については、前回理事会でも認めていただいているため、まずは現企画で進めさせ

ていただきたいとの要望があり、今後内容については、本日の意見をふまえ、継続的に検討していきたいとの説明があった。栗原会長より、「教育の質保証、コメディカルセッション（底辺を広げるために）などを取り込んで進められるかについても検討が必要である」とのコメントがあり、来年3月の理事会までに改めて規約改訂案などを配布することが確認された。教育プログラムのポスターを全国のコメディカル系・理工学系の大学学部へ配布することが報告された。ポスターについては、文字が多すぎ読みにくい、教育プログラムを強調した内容にしてほしいとの意見があり、意見を反映させ改訂することが確認された。教育委員会の中島委員より、「コメディカル、ポスドクの方に質の高い教育プログラムを提供し、楽しく学んでいただきたい。資格は付随的なものである。初めにかかる事務経費も登録料などで徐々に返していきたい。」との説明があった。

#### 11. 学術・研究委員会報告（加藤委員長）

本年4月より、生理学会新体制にともない、新委員会を設立したことが報告され、以下の委員会の役割分担について説明された。

1) 学術研究委員会：もともと科研費委員会であり、研究費に関する学会としてのとりまとめ、学術会議、学術振興会、JST、文部科学省などと連携した学術プロジェクトのとりまとめ、大会における科学研究費関連のシンポジウムの企画・実行、その他学術・研究に関する学会としての対応の庶務を行う。

2) 他学会連携委員会：生理科学やそれ以外のコメディカル、ノンメディカルの分野を含め、様々な問題を他学会と共有し、連携をとるための窓口となる委員会。大会における他学会との合同企画、大会の合同開催などの立案、とりまとめを行う。

3) 集会委員会：大会の企画・内容に関する継続性の確保、地方会の開催状況に関する情報一元化、生理学会主催・共催・後援行事の情報収集やとりまとめを行う。

また、第90回大会において科研費関係のシンポジウム（フォーラム）を企画中である。

#### 12. 他学会連携委員会（黒澤委員長）

12名の委員より構成され、赤羽委員が薬理学会、内田委員が鍼灸学会、岡部委員が解剖学会、尾仲委員が内分泌学会、小峰委員が理学療法士協会、澁谷委員が獣医学会、中村委員が神経科学学会、中村（健）委員がリハビリテーション医学会、西田委員が病態生理学会、能勢委員が体力医学会、

福田委員が生物物理学会、黒澤委員長が自律神経学会を担当することが報告された。第90回大会で各学会との連携シンポジウムを提案し、石川大会長の承認を得た。大会期日決定後、連携先の各学会で周知していただく予定。次回からは事前に大会長に相談しながら進める。また、薬理学会、解剖学会それぞれにおける生理学会との共同シンポジウムの開催が決定した（加藤副会長のご尽力による）。

### 13. 研究倫理委員会報告（蔵田委員長）

5月に動物実験の法律改正案がまとなり、8月29日に法案が通過した。5年先まで現状の制度でいくことが報告された。法案通過の前後に愛護団体より意見書が多数届いたが、学会としては特に対応しなかった。

### 14. 利益相反委員会報告（蔵田委員長）

2年前より日本生理学会利益相反指針策定の準備を進めてきた（日本医学会からのCOIに関するアンケートが発端）。主に臨床研究に関するCOI策定が求められているが、基礎研究が主な生理学会でも、産学連携による医学研究の利益相反について学会として指針を策定することとなった。主な活動として学術発表（雑誌への投稿と大会での発表）の際に利益相反の有無を開示することを義務づける。また、利益相反開示に関して問題（違反）があった場合には会長が措置に関する権限を持ち、会長で解決できない問題については利益相反委員会に諮問し、最終的に理事会で審議する、という流れになる。3月に正式に承認されれば、実際の手続きとして、まずは役員が利益相反申告書を提出し、また大会発表者、雑誌発表者についてもCOI状態がある場合にはそれぞれ申告書で開示することが義務づけられる。開示期間については、発表時期からさかのぼって過去2年間以内での発表内容に関してCOI状態を開示する。大会での発表については今後演題登録の際ウェブ上で、ある・なしにチェックする形となる。雑誌、大会発表ともに、「学術的発表内容に関する」、「抄録発表内容に関する」利益相反状態について開示することが再確認され、日本生理学会利益相反指針が承認された。2013年3月の総会で承認されれば、4月より施行されることが確認された。

### 15. 国際交流委員会報告（久保委員長）

以下の報告があった。

1) 本年11月に中国で国際生理学カンファレンス(ICPS2012)が開催され、中国生理学会よりシ

ンポジウム提案を求められ、2件提案し採択され、学会に貢献した。

2) 3月での大会で、KOJACHシンポジウムについては中国からも良いレスポンスがあり、第90回大会でのシンポジウム企画も順調に決定した。また中国生理学会より、中国生理学会企画のシンポジウムを実施したいと要望があり採択した（旅費は中国負担、大会参加費免除）。

3) スカンジナビア生理学会との合同シンポジウムも実施されることが決まった。

4) IUPS2013に関して、生理学会提案のシンポジウムが2件採択されたことが報告された。またKOJACHシンポジウムについて、韓国より3か国連携が難しいため、2か国連携してほしいとの打診を受けており（個人ベースでオフィシャルではないが）、2014年より形を変えて開催する可能性もあることが報告された。

### 16. 集会委員会（福田委員長）

委員会で、学術研究委員会との役割分担、大会長選出に委員会としてどのように関わるかにつき検討されたことが報告された。大会の継続性については、基本的には今までのプログラム内容を踏襲することで意見がまとまったことが報告され、第90回大会では大会マニュアルを作成することが確認された。また、大会長選出時期については少なくとも3年前に人選し、集会委員会には4名の大会長（前年度、今年度、次期、次々期）にオブザーバーとして参加いただけると継続性が保たれる、との提案があった。特に2019年は日本でのFAOPS開催があるため、2019年の大会長については、2014年までに決定すべきとの提案があった。また、大会長の選出方法、次期大会長の選出時期について明文化してほしいとの提案がだされた。栗原会長より、選出方法についての大枠の規程案を集会委員会で練って再度提案してほしいとのコメントがあり、集会委員会で検討することになった。

### 17. 将来計画委員会報告（白尾委員長）

前委員会から引き継いだ主な検討事項、活動内容として、基礎医学教育の活性化、他学会との共同開催、他国生理学会との交流を図ることなどが報告された。また若手中心に開催される地方会の活性化、若手生理学会員を増加させるための具体的提案をしてきたことが報告された。他学会連携については、2015年日本医学会総会に向けての提案をしている。その他以下の要望がだされた。

・他国生理学会との交流について、アジアの若

手研究者に対してのトラベルグラントを充実させてほしい旨、大会長にお願いしている。

- ・地方会について、若手が交流できるようなプログラムなどを検討してほしい。

- ・若手会員を増やすために、大会にて若手を育てるための一般口頭発表演題を増やしてほしい。

- ・大会準備のための大会長の早めの選出、また会員交流の場として、大会中の懇親会の実施を希望する。

このほか、生理学会として一般社会に生理学の重要性を問いかける，“生理学会アウトリーチ活動”を提案している、また教育委員会の鯉淵委員長より、各委員会を横断するようなワーキンググループ設定の要望があり、現在メール会議等で意見交換をしている。第90回大会での懇親会実施については検討中である。第91回大会でも今後検討する。

#### 18. 男女共同参画推進委員会報告（関野委員長）

第10期男女共同参画学協会連絡会の運営を担当した。また連絡会については現在72学協会が加盟、会員数48万人、そのうち女性会員は4万人であることが報告された。10月7日に第10回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが開催され、主な内容として、いかに女性リーダーを育てるか、また補助金での採用者の雇用体系が不明瞭である点について議論され、全体として活発な意見交換がされた。また本シンポジウムの資料集を作成した（本日会議資料として配布された）。参加者は150名（非会員の参加者107名、シンポジスト7名、来賓6名、学会員30名）であり、シンポジウム開催にあたり生理学会の女性の会、若手の会からの支援に対し感謝の意が述べられた。第89回日本生理学会大会会場で行ったアンケートの回答率は20%で、結果は第90回大会でポスター発表される。11月の学協会連絡会が大規模アンケートを実施中で、幹事学会として生理学会からは10%以上の回答が必要であり、内閣府に働きかけるためには2万人以上の回答が必要なため、アンケートの回答への協力、周知依頼がされた。

#### 19. 賞選考委員会報告（松井委員長）

現在、奨励賞受賞者を選考中である。次年度以降の奨励賞への推薦依頼、また本年度申請者は皆歯学系でMDがないため、来年以降この点も考慮して推薦いただきたいとの要望があった。

#### 20. 入澤若手賞選考委員会（亀山委員長）

11月末に受賞者決定予定との報告があった。

#### 21. 入澤賞運営委員会（持田委員長）

現在報告事項はなし。

#### 22. 生理学女性研究者の会運営委員会報告（少作委員長）

第3回入澤彩賞の選考を開始し現在選考中。本年度対象者は40歳未満の若手女性である。今年は選考委員が全員女性だが、来年より選考委員に男性も加わる。今回13名の応募があったが、そのうち2名についての応募は「生理学会員」という条件を満たしておらず無効となった。応募者は会員であると思っていたが、留学中に会費を滞納し退会扱いとなっていたようだ。留学は2年間の場合が多いことを考えると、2年間滞納で退会になるのは期間が短いのではないかと、また、滞納について知らされない状況を改善してほしいとの要望があった。これに対し、栗原会長より、原則として督促状を出すシステムにしており、留学生については留学中の所在地を連絡していただく、また帰国時に滞納分を納入いただくことで会費未払いをなくす、という説明があった。

#### 23. 若手の会運営委員会（上窪委員長）

6月30日に「生理学若手研究者フォーラム」を開催され、10名の演者に発表いただき、そのうち、参加者の投票により3名に若手研究者奨励賞を贈呈した。8月8～9日の「第12回生理学若手サマースクール」、10月7日に開催された「第10回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム」の運営補助を行った。またアウトリーチ活動の一環として、一般向けのイベント「サイエンス・カフェ」を企画中で、今年度中に開催予定である。

#### 24. 義援金配分委員会（佐々木委員長）

東北地方太平洋沖地震被災三県に所在する大学、研究機関に所属する研究者への大会参加登録費の返還については29件、また破損した実習用機器、器具の修理費用の一部補助については1件の申請があり、支援を行った。また、急遽東北談話会への参加者へも参加登録費の返還を行うこととし、現在、申請者へ返還作業を行っている。残金を有効活用するため、次回大会での参加費返還のほか、義援金の援助活用について再検討し、新たな意見を募る必要があることの提案があった。

#### 25. 日本医学会評議員会報告（加藤評議員）

現在、日本医師会の中に日本医学会が所属しており、日本医師会から年間予算として1億3千3百万でているが、今後日本医学会の法人化、独立

に伴い、今までの予算がとれなくなる。現在でている方針として、1分科会あたり年間5万円、1会員当たり100円を負担するという案が出されている(生理学会としては年間30万円の出費となる)。分科会である利点としては、①医学会総会、②日本医学会分科会横断型シンポジウムの開催、③医学、医療の情報の収集と社会への啓発活動の推進、④加盟分科会が抱える諸問題への共同的取組、⑤医療に係る社会活動における他団体との連携、責務の遂行、⑥関係省庁への働きかけなどが挙げられる。各分科会が運営資金を負担する方法について、アンケートに回答を求められた。日本生理学会としては、正副会長で相談した結果、「それぞれの学会の予算規模、会員規模に応じた案分方法を検討してほしい、原則的には法人化し、独立することに賛成であり、生理学会も一分科会として活動していく」と回答したことが報告された。これに対して出席理事より、分科会としての権限と支出のバランスについての疑問が出された。一方、日本医学会から発する意見や要望は影響力が大きいため、出費はあっても分科会として所属することには大きな意味があるとの意見もあった。栗原会長からも、日本医学会に今後も継続して参加すべきであるとのコメントがあり、分科会としての活動を継続することが承認された。

## 26. 日本医学会用語委員会報告(柚崎委員)

日本医学会医学用語辞典 Web版を使用できるので、積極的に利用していただきたいとの要請があった。専門分野により言葉の使い方が違いウェブ版も含め用語辞典が不完全であるため統一すべきとの動きがあるが作業は難しい。生理学会では、植村先生がまとめられた用語辞典がデジタル化された。今後、用語のとりまとめを、日本医学会に任せてよいのか、または学会レベルで用語や解説を整備する必要があるか、意見を求められた。出席理事からは、医学会用語集に載っていない用語について何からの形でまとめるべきとの意見がだされ、生理学会でも独自に用語集を作成することが提案された。どのような方針、段取りですめるかについては、デジタルデータをHPにアップし、要望などを受け付ける形にしてはどうかとの案が出された。用語集作成は作業量が多いため、チームを作り継続的に作業を進めていくことになった。

## 27. 国際生理科学連合(IUPS)報告(倉智 IUPS 副会長代理:古谷先生)

倉智 IUPS 副会長の代理として、古谷先生(大

阪大)より以下の報告があった。

1) 2009年の京都での大会に続き、2013年3月にバーミンガムにて大会が開催される予定。現在、一般演題公募中で1月31日が締切りのため日本生理学会からも多数演題登録いただきたい。

2) General Assemblyの会議が行われ、座長の選定と規約の承認がされた。

3) Executive Committee 選定のための Nominating Committee が設定され、今後候補者リストを作り2013年大会で決定される予定。

4) 2013大会でのサテライトシンポジウムとして国際科学会議の中のバイオユニオン主催でシステムバイオロジーに関するシンポジウムが大会直後に開催されることが決定した。

## 28. FAOPS2019 組織委員会報告(鍋倉委員長)

8月31日 FAOPS 財務委員会、10月末にメール会議を開催した。また3月以降、尾松先生が会計監事として委員会に加わったことが報告され、以下2点について要望があった。

1) 大会規定の承認(基本的に IUPS 大会に準じた規定となっている)

2) FAOPS2019への支援として、生理学会大会における一般参加者参加費(学生・招待演者は除く)に1000円支援費として上乘せしていただきたい。また年大会の余剰金が出た場合、FAOPS2019の支援にあてていただきたい。栗原会長より、IUPSのときも上乘せについては賛同いただいたことが説明された。

1) について承認された。2) については、出席理事より、①大会口座と学会口座が別立てのため、寄付を集める場合には会計上、税務上の処理を考慮して進めるべき、②トラベルグラントの使用目的をより目的を明確にするためにも、「学生」や「若手研究者」などに対象を絞ったほうが出費しやすいのではとの意見があった。これに対し、委員長からは経済状態が悪い国からの参加が多いため、若手以外にも招聘演者のサポートが必要だが、今後意見を考慮し再検討することが確認され、支援金上乘せについては、2014年度大会よりスタートすることが承認された。

## 29. 生物科学学会連合報告(小西連絡委員)

生物科学系の30の学会が集まった連合で、国際生物学オリンピックの支援やシンポジウム開催が主な活動であることが説明された。運営経費が不足しているため、来年度以降会費が3万円から5万円に増額されることが説明され、承認された。

### 30. 脳科学関連学会連合報告 (加藤評議員)

国内の基礎・臨床系学会19学会により脳科学関連学会連合が設立され、各分科会より3名の評議員を選出することがきまり、日本生理学会からは栗原会長、加藤副会長、伊佐正先生が評議員となり、その中から伊佐先生が運営委員に選出されたことが報告された。

### 31. 第89回日本生理学会大会 (松本大会) 報告 (大橋大会長)

大橋大会長に代わり、栗原会長より決算報告について説明があった。税理士に確認いただき、特段問題となる点はなく、残高は190,188円になったことが報告された。また、事後処理費の人件費(1,151,600円)については、前事務局の滝さんに継続的に勤務いただくための人件費として学会へ寄付いただいた額で、今後はこの経費は発生しないことが説明された。決算報告について承認された。

### 32. 第90回日本生理学会大会準備状況報告 (石川大会長)

第90回日本生理学会大会は、平成24年3月27日～29日の日程で、東京タワーホール船堀(江戸川区)にて開催されることが確認された。基本テーマは「進化した生理学」とし、7つの学会との合同シンポジウムはじめ、それ以外でも多数、他学会との合同シンポジウムを開催予定であることが報告された。教育委員会のエデュケータープログラムの開始により、医学部以外のコメディカルの先生方も含めた催しを企画している。学会の特徴的シンポジウムとして、以下が報告された。

①宇宙医学シンポジウム：宇宙飛行士の向井千秋さんを演者に招く。

②佐川記念シンポジウム：1研究者の生理学分野での研究の発展について確認する。シンポジウムは佐川先生に師事した先生方。また、ポスター発表に対して佐川賞を設ける。

③特別講演(学会外から講師を招く)：キム・バレット先生(アメリカ生理学会会長)、新井賢一先生(東大医科研)、チャップマン先生(武田研究所)、黒川清先生(前日本学術会議会長)などを招聘する。

950演題が集まったことが報告され、出席理事に対し周囲への参加よびかけが依頼された。

### 33. 第91回日本生理学会大会準備状況報告 (亀山大会長)

2014年3月16日(日)～18日(火)に鹿児島大

学郡元キャンパスで開催されることが確認され、プログラムについては、集会委員会等での議論、第90回大会などを参考に企画する予定であることが報告された。

### 議 題

1) 平成24年第1回理事会議事録、評議員会総会議事録が承認された。

2) 特別会員推薦について：候補者の伊藤正男先生、金子章道先生について栗原会長より説明があり、2名が来年度から特別会員となることが承認された。

3) 利益相反指針について：委員会報告時に承認された。

4) 日本生理学会プライバシーポリシーについて：小西副会長より説明された。他学会の規程を参考に、個人情報取扱規程を作成した。メールアドレスの情報提供がない場合、理事選挙時の投票ができない(今後オンライン選挙になった場合、メールアドレスの登録が不可欠なため)ことを明記したことが説明された。3月の評議員会・総会で承認を得たいため、後日内容を確認いただき、意見があれば事務局に連絡いただきたい旨、述べられた。

5) 旅費規程について：小西副会長より説明された。今までと比較して主な変更点としては、宿泊費の上限を12000円(今まで1万円)とすること、国際会議に生理学会の公用で参加した場合、10万円を上限として旅費を支給することである(今回の理事会に関する旅費は今までの慣例に倣う)。3月の評議員会総会で承認を得たいため、後日内容を確認いただき、意見があれば事務局に連絡いただきたい旨、述べられた。

6) エデュケーター認定制度について：教育委員会報告時に承認された。

7) 日本生理学会フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会延長について：倉智委員長代理として、古谷先生(大阪大)よりメンバーが確定したことが報告され、委員会の延長が承認された。

8) 第92回日本生理学会大会について：医学会総会が関西で開催されることもあり、関西方面での開催が検討され、最終的に岡村康司理事(大阪大学)に打診したことが栗原会長より報告された。岡村理事より、2007年に続いての阪大での開催となるが、基本にお引き受けしますとのコメントがあり、承認された。

9) その他：FAOPS2015(台湾)の抄録をJPSに掲載する件について、栗原会長より説明があっ

た。150万円ほどの出費となるが、今後のアジアとの関係や2019年の日本でのFOAPS大会を考慮し、掲載すべきではないかとの提案があり、承認された。出席理事より、継続的に掲載するののかとの質問があり、継続ではないことが確認された。

また抄録を掲載するとImpact Factorが下がるのではないかと懸念が出されたが、デメリットはないとの説明があった。CD化してはどうか、または購入してもらってはどうか、との意見もあり、今後検討することとなった。



## ●平成 24 年度第 2 回教育委員会議事録

日 時：平成 24 年 11 月 24 日 10 時～12 時

会 場：東京慈恵会医科大学高木会館 5 階 D1 会議室

出席者：石松 秀（久留米大），奥村 敏（鶴見大），奥村 哲（静岡理工科大），河合康明（鳥取大），久野みゆき（大阪市大），鯉淵典之（群馬大），椎橋実智男（埼玉医大），鈴木敦子（健康科学大），中島昭（藤田保健衛生大），松田哲也（玉川大），森田啓之（岐阜大），山下俊一（女子栄養大），山中章弘（生理研）（五十音順）

欠席者：小泉 周（生理研）

議 長：鯉淵典之委員長

書 記：奥村 哲，山下俊一

### 【報告事項】

#### 1. 前回議事録承認

「生理学エドゥケーター」資格制度」と統一的に表記することで承認された。

#### 2. 日本生理学会理事長・副理事長会に関する報告事項

・生理学エドゥケーター認定制度委員会の立ち上げが承認された。

・一般向けの HP を整備し，山中伸弥教授ノーベル生理学・医学賞受賞の祝辞と，本賞が“生理学”・医学賞であることの一般向けのメッセージを掲載する。

#### 3. 日本生理学会常任理事会に関する報告事項

本日の常任理事会に以下の提案を行う。

・日本生理学会認定「生理学エドゥケーター」資格制度規約の承認。

・生理学エドゥケーター認定制度委員会の立ち上げの承認。

・認定委員会委員長の常任理事会への出席の承認。

・生理学会大会教育プログラム宣伝のポスター・ちらしと配布の承認。

#### 4. 生理学会実習書の進捗状況について

著者と編集委員には初稿が送られた。年末までに校正を終える予定である。

その後，ワーキンググループでメール会議をして表記等を整える。

#### 5. 教育ランチョンセミナーについて

次回日本生理学会大会に教育ランチョンセミナーが追加された。

モンテシステムが展示する実習用機器について，アメリカの生理学教育の専門家による講演が

ある。

### 【討議事項】

#### 1. アウトリーチ活動に関する今後の対応について

教育委員会より将来計画委員会宛に以下の趣旨の要望書を提出した（平成 24 年 10 月 19 日）。アウトリーチ活動は他学会でも積極的に行われており，ますます重要性を増している。

・ノーベル生理学・医学賞に関するインターネット上の記載から生理学会 HP へのリンクが全くみられない。つまり生理学会の HP は役に立っていない。生理学とはどのような学問かを理解できる一般向けのページを整備する必要がある。

・生理学会員は出前講義等のアウトリーチ活動を行っている。これらの活動を生理学会 HP で広報する。

他学会に対する広報活動が重要だが，これに関しては他学会連携委員会に任せる。

生理学会大会の市民講座に関する広報活動は，現在は大会長に一任されているが，学会が一貫性をもって継続的にかかわった方が良い。

小泉委員の実施している科学コミュニケーションについては，将来公募シンポジウムを提案してもらい，教育委員会がサポートする。

#### 2. 教育プログラム当日の役割分担

モデル講義と教育講演の出欠（ポイントの加点）は会場入り口で会員番号をバーコードリーダーで PC に読み込んで行う。講演がスタートする 8 時半，11 時半，15 時半に来場者が多くなるので，バーコードリーダー操作係を 4 人依頼している。それ以外に委員 1 人が受講証明書を渡す等の会場係として対応する。

役割分担は以下のとおり

会場係 1 日目午前：椎橋委員，午後：中島委員

2日目午前：石松委員，奥村（哲）委員，午後：石松委員，椎橋委員

モデル講義のハンドアウトのセットと配布は時間のあいている委員が全員で行う。

モデル講義のビデオ撮影については業者依頼すると25万円程度かかる。今回は石松委員を中心に委員で手分けして撮影し，HPにアップロードするのに最低限必要な編集を行う。

会員番号のPCへの入力下記の場合が考えられる。

1) あらかじめ参加登録されている場合はバーコードリーダーで読み取る。

2) 当日参加の場合は会員番号を大会参加証に文字で書いてもらい，会場でPCに手入力する。

3) 当日入会については，推薦状があれば入会できる。この場合は2)と同様にする。

4) 推薦状が用意できない場合は後日入会することになると思われる。この場合は受講証明書を渡し，後日ポイントを加点する。

各プログラムを1ポイントとし，入場ごとに下記のように加点する。

1日目

8時30分：2ポイント

12時00分（ランチョン）：福島先生以降を聞くか尋ねてYesなら4ポイント

13時30分（福島先生開始時）：4ポイント

14時30分：3ポイント

15時20分：2ポイント

16時10分：1ポイント

PCレンタル料については予算は承認されているので，支出方法を小西財務幹事に確認する。

### 3. エducator制度と会員名簿のリンク

事務局皆川雅子氏より会員個人情報画面（マイページ）でのポイント確認について説明があった。

・各プログラム1ポイントとし単純加算される。

・各プログラム名は区別できる範囲で短い方が見やすい。

・合計ポイント数が15に達すると新規申請資格ありと表示される。

この画面をプリントアウトして申請に用いる。

・試験に合格すると合格年月日が表示される。

この表示は過渡的措置による合格にも対応する。

・コンビニまたは郵便局で支払われる申請費用の情報は，SBCファイナンスからCSVファイルで提供され入力される。

### 4. 教育プログラムに関する広報活動

奥村委員作成のちらし，ポスターの内容を確認し，学会理事長名と大会長名を入れることとなった。

このちらしは生理学雑誌1月号に同封する。ポスターについては別途印刷し発送する。印刷費用は予算として承認されている。

学会員宛てに案内をメールし，大会HPにも掲載を依頼する。

### 5. 生理学エドyuekator認定委員会立ち上げ

生理学エドyuekator認定委員会の委員長として中島委員を承認し，委員の人選を委任することとなった。委員には事務局より委嘱状を発送する。本日の常任理事会に認定委員会の立ち上げを提案する。

資料に基づき「生理学エドyuekator」資格制度規約の変更点と工程表を確認した。

第91回大会後には最初の申請者があると予想される（過渡的措置による）。料金としては，申請料（資格審査料と試験料）5,000円，登録料10,000円，5年ごとの更新料10,000円を想定している。この金額は，本制度の運営経費をまかなうものとし，高額になることを避ける。

本制度の運営維持には魅力的な教育プログラムが必要不可欠である。講演終了時にアンケートを実施し，プログラム向上のための資料とする。

教育プログラムの講演者には1ポイントを加点する。

学会HPに認定委員会のページを整備する。

### 6. その他

・日生誌のEducation（教育のページ）については歯科系の生理学教育やスポーツ医学の執筆を依頼する。体力医学会，解剖学会，生化学会等に投稿を呼びかける。

・コアカリキュラムに関しては次回の委員会で検討する。

## ●平成 24 年度第 1 回集会委員会議事録

日 時：平成 24 年 11 月 24 日

会 場：東京慈恵会医科大学 高木会館

出席者：福田敦夫（委員長）、鍋倉淳一、加藤昌克、佐々木和彦、丸中良典、八尾 寛、高井 章、松井 秀樹、白尾智明、加藤総夫

欠席者：上田陽一

特別委員出席者：石川義弘（第 90 回大会長）、亀山正樹（第 91 回大会長）

### 報告事項

1. 今年度の以下の活動内容について、福田委員長から説明があった。その内容を確認し、理事会にて報告することとした。

(1) 学術研究委員会から派生的に「集会委員会」と「他学会との連携委員会」（黒澤美枝子委員長）が今年度から発足した。

(2) 次期大会長および次々期大会長が委員ではないため、石川義弘（第 90 回大会長）、亀山正樹（第 91 回大会長）の両氏に特別委員として参加していただくよう委員長から要請した。

2. 第 90 回大会（タワーホール船堀、東京）の主題、プログラムの枠組み等の開催概要について、大会長の石川特別委員が報告を行った。約 950 の演題が登録されたこと、萩原及び田原シンポジウムに加え、独自企画として「宇宙医学シンポジウム」や「佐川記念シンポジウム」が企画されていること、コメディカル企画として鍼灸やリハビリテーションに関するシンポジウム、及び生理学教育関連シンポジウムが日本語で企画されていること、優秀ポスターを「佐川賞」として褒賞すること等が報告された。

3. 第 91 回大会（鹿児島）の準備状況について、2014 年 3 月 16—18 日に鹿児島大学キャンパスを会場とすることが、大会長の亀山特別委員から報告された。

4. FAOPS2019 の大会長である鍋倉委員から、もし生理学会大会との同時開催となるのであれば、会場の選定にも影響し、2014 年 12 月の第 8 回 FAOPS 大会（バンコク、タイ）において準備状況を報告する都合上、それ以前に第 96 回大会の大会長を決定する必要があることが報告された。

### 【協議事項】

1. 集会委員会にて今後審議すべき案件について協議した。大会、地方会の連続性や統一性を担保することが最重要との意見で一致した。そのため、平成 24 年 3 月の常任幹事会に学術研究委員会（久保義弘委員長）から提出された「大会開催に関する引き継ぎ事項等、および大会に関する今後の検討課題について」の提案書を基本とし、今後これを「集会委員会」で引き継ぐこととした。また、大会運営のノウハウを伝承するためには大会運営実務者が集会委員会に出席することが不可欠であるため、集会委員会には大会長が出席することが望まれる。これに関しては今後も継続的に 3 年後までの大会長と前大会長の出席を委員長から特別委員として要請することを確認した。したがって、大会長の特別委員としての任期は 4 年間となる。また、マニュアルの保持・伝達に集会委員会が積極的にかかわることを確認した。

2. 大会長の選出に集会委員会がどのようにかわるべきか協議した。毎年大会時に開催される委員会において、地域性や利便性、学問的特色を考慮に入れて協議のうえ、3 年後の大会の委員長候補者をリストアップし、役員会上申する。これをうけて役員会において冬の理事会に先立って大会長を決定し、集会委員会委員長に伝える。以上を理事会に提案することとした。

3. 次期大会長から集会委員会への大会行事の概要の報告時期は、毎年冬の第 1 回委員会に先立って文書で委員長に対して行い、さらに委員会の席上で委員に説明することが望ましいことで意見が一致した。また、このときの委員会において次々期大会長も準備状況を報告するとともに、3 大会後の大会長にも出席を依頼することを確認した。